

本を育てる

151001

木を育てるには水を与え植物生育必要な栄養素を与え、日の光に当ててやると良い
そんなの当たり前じゃんと思うのだが、現実はなかなかそうになっておりません。

痩せたに日当たりの悪い中庭にイチヨウを植えた

銀杏を採ろうというわけだ

雑草が生えると栄養を取られるから一本残らず引き抜く

日当たりがイマイチなので大きな反射鏡を屋根に置き

NC制御で太陽を当てようを追いかけさせた

イチョウ用の肥料も与えた

水は、風呂の水を水中ポンプでタンクに溜め込み

日々そこから汲んでじょうろで撒いた

苦心惨憺、木はだんだん伸びて、屋根の高さを超え

NC制御も不要となった

そろそろ銀杏がと期待したが

雄の木だと判明した

どこか近くに雌の木があれば、そこで銀杏になるであろう

この苦労は無駄にしたくないと

「木の育て方」という初心者用の解説書を書き上げた

実の成る木を植えたいという隠れた需要を掘り起こし

2万部も出て行った

次は「本の育て方」を何人かの作家に依頼して、プロ志望者用に編んでみたいと思って

いたが、残念ながら、稿料と印税の負担に耐えかねて計画は破綻した。
大きく育ち、保護樹木のプレートを巻いた中庭のイチヨウを見るたびに
育てるのは気を育てるのと似ていると思い、思い切って応募した
あとは厳正なる審査を待つだけだが、それまで気を張り詰めておられるか
少し自信がない
気力だ！ 気力だ！ と叫びながら、オリンピックでも活躍した我が娘を
肩車してリング上を闊歩した元プロレスラーの嬉しそうな顔
巧みに気力を育てあげたのだなどその光景を思い出しながら記す。

初出「即興ゴルコンダ(仮)」

<http://golconda.bbs.fc2.com/>

タイトルは、かなさん。